



高齢者・高齢障害者のシーティング

車いすの身体拘束の解決はシーティング

東京都立保健科学大学

木之瀬 隆

国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所

廣瀬 秀行

1. 身体拘束の禁止規定

「サービスの提供に当たっては、当該入所者（利用者）又は他の入所者等の生命又は身体を保護するため緊急にやむを得ない場合を除き、身体的拘束その他入所者の行動を制限する行為を行ってはならない。」(99.3.1) 厚生省令

厚生省も重い腰をやっとあげて、身体拘束の禁止規定を設けました。医療・福祉の現場は混乱しており、また、介護保険がそれに追い討ちをかけている状況です。「シーティング」では車いす上での身体拘束を行わないのが基本ですが、高齢者の車いすについては「シーティング」の考え方の発想さえありません。

2. 高齢者の身体拘束の現状

高齢者の施設では、安全ベルトと称して対象者が車いすからずり落ちてしまうのを防止する目的で対象者を抑制します。「抑制帯は誰のものか？」という、対象者が車いすから落ちて骨折すると安全管理が十分でなかったとして管理者側の問題となります。抑制帯の使用目的は施設職員が困るからであり、対象者のニーズでは決してありません。ドイツでは第二次世界大戦のアウシュビッツ収容所の反省より抑制帯を使用する場合は裁判所の係官の許可が必要であると聞きますが、国内では全く注意がはらわれていません。抑制帯は痴呆症状などにより無理に立ち上がり危険な場合以外は使用について慎重に行うべきです。

3. 車いすで抑制帯が必要になる原因

高齢者の使用する車いすは、身体寸法や身体機能とは関係なく、既製品のスリングシートや普通型車いすが使用されます。普通型車いすは車いすの折り畳み機能を優先するために、布張りシートを使用しています。スリングシートや普通型車いすは一般に「すべり座り」、「斜め座り」を助長することになります。布張りシートの車いすは障害のない人でも普段の生活では使用しません。それは、布張りシートの車いすが座りにくいを感覚的に知っているからです。布張りシートの車いすは折り畳んで持ち運びが便利なので、キャンプ等の屋外活動で使用します。

4. 車いすの抑制帯をはずす方法

抑制帯が必要になる原因は、対象者と車いすの寸法や座位能力があていない場合におこることです。ですから、座位能力に合わせた車いすを選ぶことでほとんど解決する問題です。私たちは、表の簡易車いす座位能力分類に合わせた車いす、クッション、座位保持装置を選ぶようにしています。

表. 簡易車いす座位能力分類

① 座位に問題なし	特に姿勢が崩れたりせず座ることができる 自分で座り心地を良くするために姿勢を変えることができる
② 座位に問題あり	姿勢がだんだん崩れたり、手で身体を支える 自分で姿勢を変えることができない
③ 座位がとれない	座ると頭や身体がすぐに倒れる リクライニング車いすやベッドで生活している

変形の有無の確認

① 座位に問題なし

座位に問題がない場合でも、車いすの座面と背をしっかりとした基本車いすにすることが重要です。

基本的な姿勢を目標に、でも無理のない姿勢で

- 基本車いす
1. しつかりと、安定した背・座面
 2. 背や座のクッション性
 3. 必要であれば、ランバーサポート（腰あて）も



② 座位に問題あり

車いすに座り自分でお尻の位置を変えられない方は、お尻が痛くならないような臀部全体で体重を受け止め、ずれ落ちにくい車いす専用のクッションを使用します。そうすることで抑制帯をはずすことができます。次に、斜め座りになってしまい、横方向に倒れる場合はパットでサポートします。パット類が座位保持装置の部品になっている場合は、欧米のモジュラー車いすは取り付けやすいですが、普通型車いすでは改造が必要になることがあります。

自立を可能とするためには、座位保持と安楽性が必要です。

すべり座り 1. 基本車いす 2. わずかなアジャスト



斜め座り 1. 基本車いす 2. 臀部の左右からの変え



変形がある 基本車いすを目指しますが、安楽さを第一に考えます



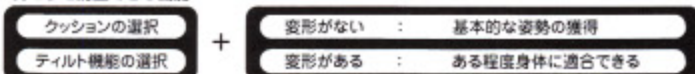
システム(その3)

③座位がとれない

重度の寝たきり状態の場合は車いすの座シートと背が同じ角度のまま、全体が傾くティルト機能を持つ座位保持車いすを使用する方法があります。重度者は一般にはリクライニング車いすを使用しますが、背をリクライニングさせた途中の角度は、よりすべり座りを助長して、座る対象者も介助者も負担が大きくなります。

- 褥瘡防止、膝下などの生理機能の維持
- 介護のしやすさ

褥瘡を防止できる機能



5 抑制帯をはずした症例

①痴呆症状が進み車いすになった女性

痴呆症状が進行し、歩けなくなり車いすを利用するようになった。初期は車いすのフットレストを踏み立ち上がる等の危険な動作があったために抑制帯を使用した。その後、立ち上がることはなくなったが、車いすよりずり落ちるため抑制帯を使用した。車いす座位能力は2レベルで、症状の進行にも配慮しティルト機能を持つREAコンフォートを使用した。座面のクッション性とわずかなティルトで抑制帯ははずれた。



普通型車いす+抑制帯



座面のクッション性+わずかなティルト

②左片麻痺で股関節に屈曲制限のある男性

発症より長期経過し、両股関節屈曲制限とハムストリングの短縮により2、3分ですり落ちて、足がフットレストの内側に落ちる。抑制帯で固定するが本人が痛みや辛さを訴えるため家族が相談に来た。車いす座位能力は3レベルで、ティルト機能とリクライニング機能を合わせて使うことで対応した。リクライニング角度(座と背)を100度程度つけることでハムストリングスの短縮に対応させ抑制帯をはずせた。



普通型車いす+抑制帯



ティルト+リクライニング

上記のように、対象者の身体寸法と車いす座位能力分類に合った車いす、座位保持装置で抑制帯をはずすことができます。

《文献》

- 1.木之瀬隆、廣瀬秀行
高齢者の車いす座位能力分類と座位保持装置.Rehabilitation Engineering 13(2): 4-12,1998
- 2.廣瀬秀行、木之瀬隆、浅海奈津美、清宮清美、佐藤真理子
車「いす」について考えてみましょう
(財)テクノエイド協会.1999.3